(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3593257号
(P3593257)
(45)発行日　平成16年11月24日(2004.11.24)　(24)登録日　平成16年9月3日(2004.9.3)

(51)Int.Cl.[7]　F I
H04N 1/32　H04N 1/32 E

請求項の数 3　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願平10-129825
(22)出願日　平成10年5月13日(1998.5.13)
(65)公開番号　特開平11-331533
(43)公開日　平成11年11月30日(1999.11.30)
審査請求日　平成14年10月30日(2002.10.30)

(73)特許権者　000006747
株式会社リコー
東京都大田区中馬込１丁目３番６号
(74)代理人　100083231
弁理士　紋田　誠
(72)発明者　田中　重隆
東京都大田区中馬込１丁目３番６号　株式会社リコー内

審査官　堀井　啓明

(56)参考文献　特開平０８－１２５８２１（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
H04N1/32-1/36
H04N1/42-1/44

(54)【発明の名称】ファクシミリ装置

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
オプショナルなフレーム信号を受信可能なグループ３ファクシミリ伝送手順に従って画情報をやりとりするファクシミリ装置において、
上記オプショナルなフレーム信号の受信を有効に取り扱う相手端末の識別情報を記憶したオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルを備え、
受信時、相手端末より通知された識別情報が上記オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されているときには、その相手端末より上記オプショナルなフレーム信号を受信すると、その受信した上記オプショナルなフレーム信号に対応した制御処理を行う一方、相手端末より通知された識別情報が上記オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されていないときには、その相手端末より上記オプショナルなフレーム信号を受信しても、その受信した上記オプショナルなフレーム信号に対応した制御処理を行わないことを特徴とするファクシミリ装置。
【請求項２】
前記相手端末の識別情報は、前記オプションフレームと同時に受信する端末識別信号の内容であることを特徴とする請求項１記載のファクシミリ装置。
【請求項３】
発信電話番号通知手順の呼設定手順により通知される発信者番号を認識するとともに、オプショナルなオプショナルなフレーム信号を受信可能なグループ３ファクシミリ伝送手順に従って画情報をやりとりするファクシミリ装置において、

上記オプショナルなフレーム信号の受信を有効に取り扱う相手端末の発信者番号を記憶したオプションフレーム対応発信者番号テーブルを備え、
着信検出時、網より通知された発信者番号が上記オプションフレーム対応発信者番号テーブルに登録されているときには、その相手端末より上記オプショナルなフレーム信号を受信すると、その受信した上記オプショナルなフレーム信号に対応した制御処理を行う一方、網より通知された発信者番号が上記オプションフレーム対応発信者番号テーブルに登録されていないときには、その相手端末より上記オプショナルなフレーム信号を受信しても、その受信した上記オプショナルなフレーム信号に対応した制御処理を行わないことを特徴とするファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、オプショナルなオプショナルなフレーム信号を受信可能なグループ３ファクシミリ伝送手順に従って画情報をやりとりするファクシミリ装置の制御方法、および、発信電話番号通知手順の呼設定手順により通知される発信者番号を認識するとともに、オプショナルなオプショナルなフレーム信号を受信可能なグループ３ファクシミリ伝送手順に従って画情報をやりとりするファクシミリ装置に関する。

【０００２】

【従来の技術】

グループ３ファクシミリ通信の国際標準であるＩＴＵ－Ｔ勧告Ｔ．３０には、オプション信号として、ＳＥＰ，ＳＵＢ，ＰＷＤなどのフレームが追加で定義されている。

【０００３】

例えば、信号ＰＷＤ（パスワード）は、ポーリング通信モードでは、「続くＦＩＦ情報がポーリングモードのためのパスワードであることを示す。これはファクシミリ手順に付加的なセキュリティを与えるために用いられるかもしれない。」と定義され、また、通常通信モードでは、「続くＦＩＦ情報が伝送のためのパスワードであることを示す。」と定義されている。

【０００４】

また、信号ＳＥＰ（選択ポーリング）は、ポーリング通信モードでは、「続くＦＩＦ情報がポーリングモードのためのサブアドレスであることを示す。これは被呼（着呼）側で特定のドキュメントがポーリングされることを示すために使用してもよい。」と定義されている。

【０００５】

また、信号ＳＵＢ（サブアドレス）は、通常通信モードでは、「続くＦＩＦ情報が被呼加入者側のドメイン内のサブアドレスであることを示す。これは、ファクシミリ手順での付加的なルーティング情報を提供するものとして使用してもよい。」と定義されている。

【０００６】

これらのオプショナルなフレーム信号を利用すると、ファクシミリ通信のセキュリティ性が向上したり、ポーリング受信時に受信する画情報ファイルを選択できたり、受信側での配信先を指定（例えば、ファクシミリ装置がＬＡＮにも接続されている場合、そのＬＡＮ内の任意の端末へ受信が情報を配信する指定を行うことができる。）したりすることができて、非常に便利である。

【０００７】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、このような従来装置には、次のような不都合を生じていた。

【０００８】

すなわち、上述したオプショナルなフレーム信号は、勧告Ｔ．３０で規定されているものの、上述した定義から分かるように、その使用法がメーカー任せの曖昧なものとなっている。

【０００９】

そのために、オプショナルなフレーム信号の使用方法がメーカー間で取り決められている場合には、それらのメーカーが製造したグループ３ファクシミリ装置間の通信には問題が生じないものの、取り決めがされていないメーカーが製造したグループ３ファクシミリ装置間の通信には不具合を生じるおそれがある。

【００１０】

本発明は、かかる実情に鑑みてなされたものであり、オプショナルなフレーム信号を適切に使用することのできるファクシミリ装置を提供することを目的としている。

【００１１】

【課題を解決するための手段】

本発明は、オプショナルなフレーム信号を受信可能なグループ３ファクシミリ伝送手順に従って画情報をやりとりするファクシミリ装置において、上記オプショナルなフレーム信号の受信を有効に取り扱う相手端末の識別情報を記憶したオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルを備え、受信時、相手端末より通知された識別情報が上記オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されているときには、その相手端末より上記オプショナルなフレーム信号を受信すると、その受信した上記オプショナルなフレーム信号に対応した制御処理を行う一方、相手端末より通知された識別情報が上記オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されていないときには、その相手端末より上記オプショナルなフレーム信号を受信しても、その受信した上記オプショナルなフレーム信号に対応した制御処理を行わないようにしたものである。また、前記相手端末の識別情報は、前記オプションフレームと同時に受信する端末識別信号の内容を用いることができる。

【００１２】

また、発信電話番号通知手順の呼設定手順により通知される発信者番号を認識するとともに、オプショナルなオプショナルなフレーム信号を受信可能なグループ３ファクシミリ伝送手順に従って画情報をやりとりするファクシミリ装置において、上記オプショナルなフレーム信号の受信を有効に取り扱う相手端末の発信者番号を記憶したオプションフレーム対応発信者番号テーブルを備え、着信検出時、網より通知された発信者番号が上記オプションフレーム対応発信者番号テーブルに登録されているときには、その相手端末より上記オプショナルなフレーム信号を受信すると、その受信した上記オプショナルなフレーム信号に対応した制御処理を行う一方、網より通知された発信者番号が上記オプションフレーム対応発信者番号テーブルに登録されていないときには、その相手端末より上記オプショナルなフレーム信号を受信しても、その受信した上記オプショナルなフレーム信号に対応した制御処理を行わないようにしたものである。

【００１３】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面を参照しながら、本発明の実施の形態を詳細に説明する。

【００１４】

図１は、本発明の一実施例にかかるグループ３ファクシミリ装置を示している。

【００１５】

同図において、システム制御部１は、このグループ３ファクシミリ装置の各部の制御処理、および、ファクシミリ伝送制御手順処理を行うものであり、システムメモリ２は、システム制御部１が実行する制御処理プログラム、および、処理プログラムを実行するときに必要な各種データなどを記憶するとともに、システム制御部１のワークエリアを構成するものであり、パラメータメモリ３は、このグループ３ファクシミリ装置に固有な各種の情報を記憶するためのものであり、時計回路４は、現在時刻情報を出力するためのものである。

【００１６】

スキャナ５は、所定の解像度で原稿画像を読み取るためのものであり、プロッタ６は、所定の解像度で画像を記録出力するためのものであり、操作表示部７は、このファクシミリ装置を操作するためのもので、各種の操作キー、および、各種の表示器からなる。

【００１７】

符号化復号化部８は、画信号を符号化圧縮するとともに、符号化圧縮されている画情報を元の画信号に復号化するためのものであり、画像蓄積装置９は、符号化圧縮された状態の画情報を多数記憶するためのものである。

【００１８】

グループ３ファクシミリモデム１０は、グループ３ファクシミリのモデム機能を実現するためのものであり、伝送手順信号をやりとりするための低速モデム機能（Ｖ．２１モデム）、および、おもに画情報をやりとりするための高速モデム機能（Ｖ．１７モデム、Ｖ．３４モデム、Ｖ．２９モデム、Ｖ．２７ｔｅｒモデムなど）を備えている。

【００１９】

網制御装置１１は、このファクシミリ装置を公衆電話回線網に接続するためのものであり、自動発着信機能を備えている。

【００２０】

これらの、システム制御部１、システムメモリ２、パラメータメモリ３、時計回路４、スキャナ５、プロッタ６、操作表示部７、符号化復号化部８、画像蓄積装置９、グループ３ファクシミリモデム１０、および、網制御装置１１は、内部バス１２に接続されており、これらの各要素間でのデータのやりとりは、主としてこの内部バス１２を介して行われている。

【００２１】

また、網制御装置１１とグループ３ファクシミリモデム１０との間のデータのやりとりは、直接行なわれている。

【００２２】

さて、このグループ３ファクシミリ装置は、上述したように、ＩＴＵ－Ｔ勧告Ｔ．３０に追加で定義されているＳＥＰ，ＳＵＢ，ＰＷＤなどのオプショナルなフレーム信号を取り扱うことができる。

【００２３】

そして、このオプショナルなフレーム信号を受信したときに、その内容を有効に取り扱う相手端末の識別情報を、図２に示したオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録している。なお、このオプションフレーム対応相手先識別情報への識別情報の登録は、ユーザが操作表示部７を適宜に操作することで行うことができる。

【００２４】

また、このグループ３ファクシミリ装置には、信号ＳＵＢを受信した場合の配信処理のために、図３に示すようなアドレス変換テーブルが記憶されている。このアドレス変換テーブルの各要素は、信号ＳＵＢの値と配信先の電話番号を組にして登録したものである。

【００２５】

図４は、通常通信モードで信号ＳＵＢを使用した場合のグループ３ファクシミリ伝送手順の一例を示している。

【００２６】

発呼側は、被呼側へ発呼し、被呼側は、着呼応答して、信号（ＣＳＩ）／ＤＩＳを応答する。発呼側は、被呼側より信号（ＣＳＩ）／ＤＩＳを受信すると、そのときに使用する伝送機能を決定し、信号ＳＵＢ／ＴＳＩ／ＤＣＳを被呼側へ送信する。

【００２７】

次いで、発呼側はモデムトレーニングのために信号ＴＣＦを送信し、被呼側は信号ＴＣＦの受信が適切に行われると、信号ＣＦＲを応答する。それにより、モデム速度が決定される。

【００２８】

そして、発呼側は、画情報ＰＩＸを送信し、メッセージ後命令として、信号ＥＯＰを送信し、被呼側は、画情報ＰＩＸを受信して蓄積する。被呼側は、画情報ＰＩＸの受信状態が良好な場合には、信号ＭＣＦを応答し、それにより、発呼側は、信号ＤＣＮを送出して、回線を復旧する。また、被呼側は、信号ＤＣＮを受信すると、回線を復旧する。

【００２９】

次に、被呼側は、信号ＳＵＢに基づき、アドレス変換テーブルを参照して、指定された配信先の電話番号を得る。そして、その電話番号へ発呼し、蓄積した画情報ＰＩＸを送信する。

【００３０】

なお、信号ＳＵＢを利用する応用としては、上述した配信先の指定以外に、進展受信のパスワードの指定として用いることも考えられる。この場合、例えば、「進展受信ファイルがあります。パスワードを入力してください。」という表示を操作表示部７に出力し、操作表示部７が操作されて、信号ＳＵＢで指定されたパスワードが入力された場合に限り、蓄積した画情報ＰＩＸの受信画像をプロッタ６より記録出力する用にすればよい。

【００３１】

このようにして、信号ＳＵＢを利用した通常通信モードのグループ３ファクシミリ通信動作が行われる。

【００３２】

図５は、ポーリングモードで信号ＳＥＰを利用した選択ポーリング通信の際のグループ３ファクシミリ伝送手順の一例を示している。

【００３３】

発呼側は、被呼側へ発呼し、被呼側は、着呼応答して、信号（ＣＳＩ）／ＤＩＳを応答する。発呼側は、被呼側より信号（ＣＳＩ）／ＤＩＳを受信すると、選択ポーリングのために、信号ＳＥＰ／ＣＩＧ／ＤＴＣを被呼側へ送信する。

【００３４】

被呼側は、信号ＳＥＰ／ＣＩＧ／ＤＴＣを受信すると、選択ポーリングモードへ移行し、そのときに使用する伝送機能を決定し、信号ＴＳＩ／ＤＣＳを発呼側へ送信する。

【００３５】

次いで、被呼側はモデムトレーニングのために信号ＴＣＦを送信し、発呼側は信号ＴＣＦの受信が適切に行われると、信号ＣＦＲを応答する。それにより、モデム速度が決定される。

【００３６】

そして、被呼側は、信号ＳＥＰで指定された画情報ＰＩＸを送信し、メッセージ後命令として、信号ＥＯＰを送信する。発呼側は、画情報ＰＩＸの受信状態が良好な場合には、信号ＭＣＦを応答し、それにより、被呼側は、信号ＤＣＮを送出して、回線を復旧する。また、発呼側は、信号ＤＣＮを受信すると、回線を復旧する。

【００３７】

このようにして、信号ＳＥＰを利用した選択ポーリングモードのグループ３ファクシミリ通信動作が行われる。

【００３８】

本実施例では、着呼検出時には、図６に示したような処理を実行し、また、図７に示したような配信待ちファイルのチェック処理を実行する。

【００３９】

着信検出すると、信号（ＣＳＩ）／ＤＩＳを発呼側へ送信し（処理１０１）、信号ＳＵＢ／ＴＳＩ／ＤＣＳを受信する（処理１０２）。次いで、信号ＴＣＦを受信し、信号ＴＣＦの受信が適切に行われると、信号ＣＦＲを応答する（処理１０３）。それにより、モデム速度が決定される。

【００４０】

ここで、発呼側より通知された識別情報が、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されているかどうかを調べ（判断１０４）、判断１０４の結果がＮＯになるときには、通常の受信処理を実行する。したがって、この場合は、信号ＳＵＢを参照した配信処理は実行されない。

【００４１】

また、判断１０４の結果がＹＥＳになるときには、信号ＳＵＢのフレームを保存し（処理１０５）、信号ＳＵＢに対応したビットを設定するとともに、保存した信号ＳＵＢへのリ

ンク情報を作成して、ファイルヘッダの作成を行い（処理１０６）、メモリ受信処理を実行し、受信した画情報ＰＩＸを配信待ちファイルとして保存する。

【００４２】

また、配信待ちファイルのチェック処理では、まず、保存されている画情報が配信待ちファイルであるかどうかを調べ（判断２０１）、判断２０１の結果がＹＥＳになるときには、信号ＳＵＢへのリンク情報から信号ＳＵＢのフレームの内容を取り出し、アドレス変換テーブルを参照して配信処理の宛先情報を作成する（処理２０２）。

【００４３】

次いで、配信先へ発呼して、そのときの配信待ちのファイルを送信し（処理２０３）、ファイルの送信を終了すると、送信終了したファイルと信号ＳＵＢのフレームを消去する（処理２０４）。

【００４４】

そして、全ての蓄積ファイルについてチェックが終了したかどうかを調べ（判断２０５）、判断２０５の結果がＮＯになるときには、判断２０１へ戻り、次の保存されている画情報について配信待ちファイルであるか否かのチェックを行う。判断２０５の結果がＹＥＳになるときには、この処理を終了する。

【００４５】

このようにして、本実施例では、着呼時に発呼側より通知された識別情報がオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されている場合には、信号ＳＵＢに対応した配信処理を実行するとともに、発呼側より通知された識別情報がオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されていない場合には、通常の受信処理を実行するので、例えば、発呼側が異なるメーカーのファクシミリ装置である場合など、信号ＳＵＢの使用方法が異なると想定される場合には、信号ＳＵＢを参照した配信処理を実行せず、その結果、発呼側で意図しない通信動作を自端末で実行するような事態を回避することができる。

【００４６】

また、本実施例でのポーリング受信モードでの処理の一例を図８に示す。

【００４７】

着信検出すると、信号（ＣＳＩ）／ＤＩＳを発呼側へ送信し（処理３０１）、信号ＳＥＰ／ＣＩＧ／ＤＴＣを受信すると（処理３０２）、ポーリング送信モードへ移行する。

【００４８】

ここで、発呼側より通知された識別情報が、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されているかどうかを調べ（判断３０３）、判断３０３の結果がＮＯになるときには、そのときのポーリング送信動作を強制終了し、回線を復旧する。したがって、この場合は、信号ＳＥＰを参照した選択ポーリング通信動作は行われない。

【００４９】

また、判断３０３の結果がＹＥＳになるときには、それ以降、所定の伝送手順に従って信号ＳＥＰで指定されたポーリング送信ファイルの画情報を送信し（処理３０４）、この動作を終了する。

【００５０】

このようにして、本実施例では、着呼時に発呼側より通知された識別情報がオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されている場合には、信号ＳＥＰに対応した選択ポーリング通信処理を実行するとともに、発呼側より通知された識別情報がオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されていない場合には、ポーリング送信動作を強制終了するので、例えば、発呼側が異なるメーカーのファクシミリ装置である場合など、信号ＳＥＰの使用方法が異なると想定される場合には、信号ＳＥＰを参照した選択ポーリング通信処理を実行せず、その結果、発呼側で意図しない通信動作を自端末で実行するような事態を回避することができる。

【００５１】

ところで、上述した実施例では、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録する識別情報として、発呼側より通知される任意の識別情報を適用しているが、この識別

情報として、発呼側より通知される信号ＴＳＩの値を適用することができる。
【００５２】
その場合に、着呼検出時に実行する処理の一例を図９に示す。なお、この場合においても、図７に示したと同じ配信待ちファイルのチェック処理を実行し、配信動作を行う。
【００５３】
着信検出すると、信号（ＣＳＩ）／ＤＩＳを発呼側へ送信し（処理４０１）、信号ＳＵＢ／ＴＳＩ／ＤＣＳを受信する（処理４０２）。次いで、信号ＴＣＦを受信し、信号ＴＣＦの受信が適切に行われると、信号ＣＦＲを応答する（処理４０３）。それにより、モデム速度が決定される。
【００５４】
ここで、発呼側より通知された信号ＴＳＩの値が、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されているかどうかを調べ（判断４０４）、判断４０４の結果がＮＯになるときには、通常の受信処理を実行する。したがって、この場合は、信号ＳＵＢを参照した配信処理は実行されない。
【００５５】
また、判断４０４の結果がＹＥＳになるときには、信号ＳＵＢのフレームを保存し（処理４０５）、信号ＳＵＢに対応したビットを設定するとともに、保存した信号ＳＵＢへのリンク情報を作成して、ファイルヘッダの作成を行い（処理４０６）、メモリ受信処理を実行し、受信した画情報ＰＩＸを配信待ちファイルとして保存する。
【００５６】
このようにして、本実施例では、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルには、識別情報として、発呼側から通知される標準的な信号ＴＳＩの値を登録するので、特別なプロトコルを適用しなくとも、発呼側の識別情報をやりとりすることができるようになる。なお、選択ポーリング通信では、信号ＳＥＰに付随して送信される識別信号は、信号ＣＩＧであるので、信号ＳＥＰ用のオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルには、この信号ＣＩＧの内容を登録しておくとよい。また、信号ＴＳＩおよび信号ＣＩＧのＦＩＦの内容が同一の場合には、同一のオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルを、信号ＳＵＢと信号ＳＥＰの場合について、それぞれ適用することができる。
【００５７】
ところで、近年、いわゆるナンバーディスプレイサービス（発信者番号通知サービス）が、ＮＴＴ網により提供されている。このナンバーディスプレイサービスでは、図１０に示すように、回線の確立に先立って、発信者番号が所定のモデム信号として通知される。
【００５８】
したがって、グループ３ファクシミリモデム１０に、この発信者番号通知手順に必要なモデム機能を備えることで、ナンバーディスプレイサービスにより通知される発信者番号を認識することができるようになる。
【００５９】
そして、この場合には、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルには、識別情報として、網から通知される発信者番号、すなわち、発呼側の電話番号を登録しておく。
【００６０】
この場合に、着呼検出時に実行する処理の一例を図１１に示す。なお、この場合においても、図７に示したと同じ配信待ちファイルのチェック処理を実行し、配信動作を行う。
【００６１】
着信検出すると、信号（ＣＳＩ）／ＤＩＳを発呼側へ送信し（処理５０１）、信号ＳＵＢ／ＴＳＩ／ＤＣＳを受信する（処理５０２）。次いで、信号ＴＣＦを受信し、信号ＴＣＦの受信が適切に行われると、信号ＣＦＲを応答する（処理５０３）。それにより、モデム速度が決定される。
【００６２】
ここで、網より通知された発信者番号が、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されているかどうかを調べ（判断５０４）、判断５０４の結果がＮＯになるとき

には、通常の受信処理を実行する。したがって、この場合は、信号ＳＵＢを参照した配信処理は実行されない。

【００６３】

また、判断５０４の結果がＹＥＳになるときには、信号ＳＵＢのフレームを保存し（処理５０５）、信号ＳＵＢに対応したビットを設定するとともに、保存した信号ＳＵＢへのリンク情報を作成して、ファイルヘッダの作成を行い（処理５０６）、メモリ受信処理を実行し、受信した画情報ＰＩＸを配信待ちファイルとして保存する。

【００６４】

このようにして、本実施例では、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルには、識別情報として、網から通知される発信者番号を登録するので、相手端末が信号ＴＳＩの情報として有意な情報を登録していない場合でも、適切に通信動作を行うことができる。

【００６５】

ところで、上述した実施例では、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルには、例えば、信号ＳＵＢに対応した通信動作を行う端末を登録しているが、この登録内容の使用方法は、これに限ることはない。例えば、信号ＳＵＢに対応した通信動作を行う端末の数が多い場合には、オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルには、信号ＳＵＢに対応した通信動作を行わない端末の識別情報を登録しておくこともできる。

【００６６】

また、例えば、信号ＳＵＢと信号ＳＥＰとで、異なるオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルを適用するようにすれば、より詳細な制御が可能となる。また、信号ＳＵＢ，ＳＥＰ以外の信号についても、本発明を同様にして適用することができる。

【００６７】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、着呼時に発呼側より通知された識別情報がオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されている場合には、信号ＳＵＢに対応した配信処理を実行するとともに、発呼側より通知された識別情報がオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されていない場合には、通常の受信処理を実行するので、例えば、発呼側が異なるメーカーのファクシミリ装置である場合など、信号ＳＵＢの使用方法が異なると想定される場合には、信号ＳＵＢを参照した配信処理を実行せず、その結果、発呼側で意図しない通信動作を自端末で実行するような事態を回避することができるという効果を得る。

【００６８】

また、着呼時に発呼側より通知された識別情報がオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されている場合には、信号ＳＥＰに対応した選択ポーリング通信処理を実行するとともに、発呼側より通知された識別情報がオプションフレーム対応相手先識別情報テーブルに登録されていない場合には、ポーリング送信動作を強制終了するので、例えば、発呼側が異なるメーカーのファクシミリ装置である場合など、信号ＳＥＰの使用方法が異なると想定される場合には、信号ＳＥＰを参照した選択ポーリング通信処理を実行せず、その結果、発呼側で意図しない通信動作を自端末で実行するような事態を回避することができるという効果も得る。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の一実施例にかかるグループ３ファクシミリ装置の一例を示したブロック図。

【図２】オプションフレーム対応相手先識別情報テーブルの一例を示した概略図。

【図３】アドレス変換テーブルの一例を示した概略図。

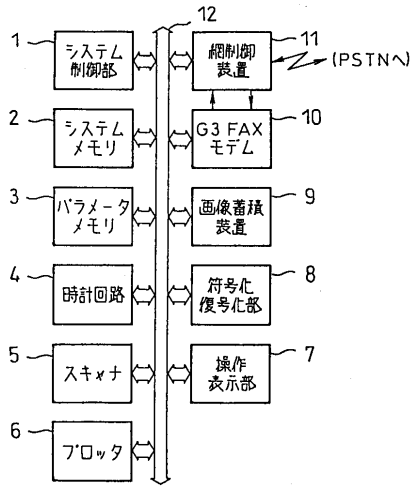
【図４】通常通信モードで信号ＳＵＢを使用した場合のグループ３ファクシミリ伝送手順の一例を示したタイムチャート。

【図５】ポーリングモードで信号ＳＥＰを利用した選択ポーリング通信の際のグループ３ファクシミリ伝送手順の一例を示したタイムチャート。

【図６】着信検出時の処理の一例を示したフローチャート。

【図７】配信待ちファイルのチェック処理の一例を示したフローチャート。
【図８】ポーリング受信モードでの処理の一例を示したフローチャート。
【図９】着信検出時の処理の他の例を示したフローチャート。
【図１０】発信者番号通知手順の場合に、通常通信モードで信号ＳＵＢを使用した場合のグループ３ファクシミリ伝送手順の一例を示したタイムチャート。
【図１１】着信検出時の処理のさらに他の例を示したフローチャート。

【図１】



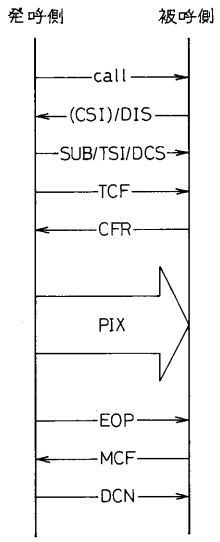
【図２】

オプションフレーム
対応相手先識別情報
識別情報＃１
識別情報＃２
識別情報＃３
識別情報＃４
・・・

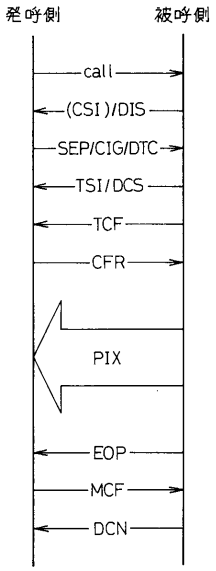
【図３】

SUB値	登録電話番号
10000001	0123-4567-8901
10000002	0234-5678-9012
10000003	03-3333-33399
10000004	06-6666-6666
・・・	・・・

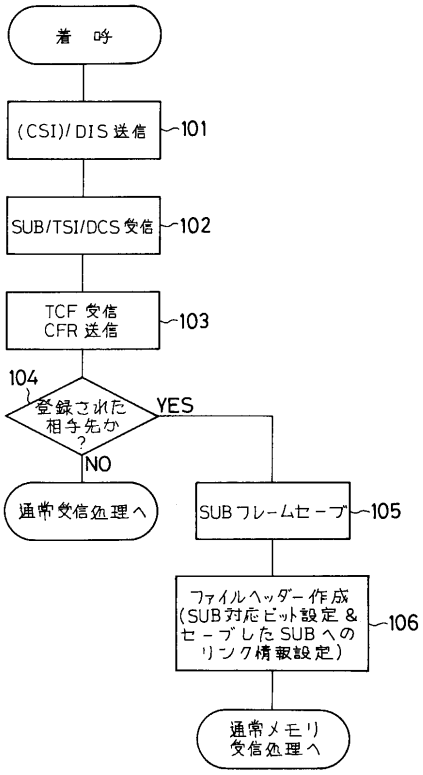
【図４】



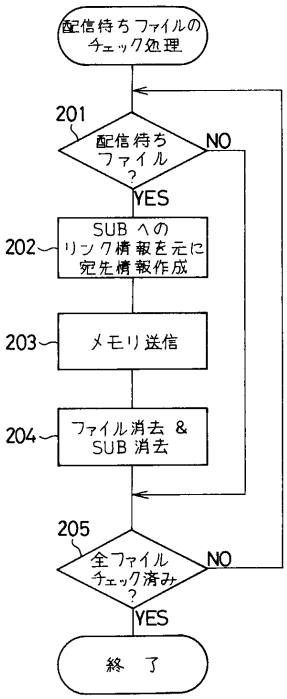
【図５】


発呼側
被呼側
call
(CSI)/DIS
SEP/CIG/DTC
TSI/DCS
TCF
CFR
PIX
EOP
MCF
DCN

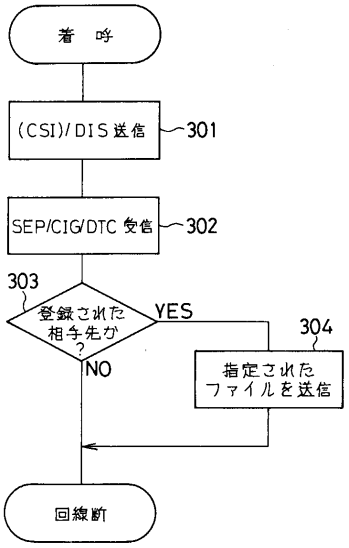
【図６】


着　呼
(CSI)/DIS送信
101
SUB/TSI/DCS受信
102
TCF受信
CFR送信
103
104
登録された相手先か？
YES
NO
通常受信処理へ
SUBフレームセーブ
105
ファイルヘッダー作成
(SUB対応ビット設定＆セーブしたSUBへのリンク情報設定)
106
通常メモリ受信処理へ

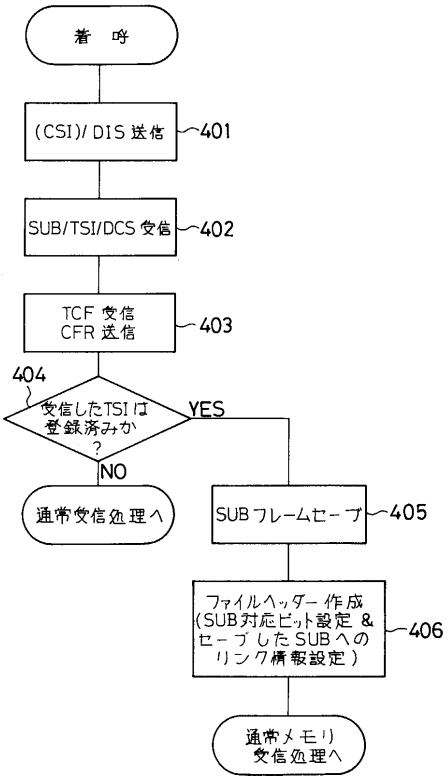
【図７】


配信待ちファイルのチェック処理
201
配信待ちファイル？
NO
YES
202
SUBへのリンク情報を元に宛先情報作成
203
メモリ送信
204
ファイル消去＆SUB消去
205
全ファイルチェック済み？
NO
YES
終　了

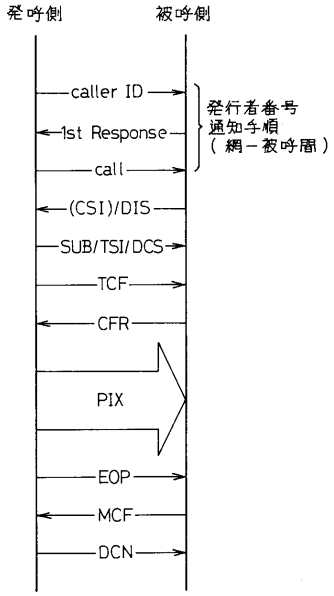
【図８】


着　呼
(CSI)/DIS送信
301
SEP/CIG/DTC受信
302
303
登録された相手先か？
YES
NO
304
指定されたファイルを送信
回線断

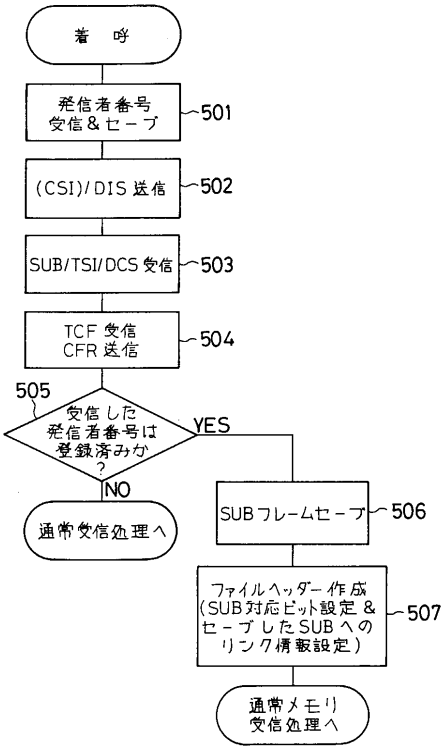
【図９】


着　呼
(CSI)/DIS 送信
401
SUB/TSI/DCS 受信
402
TCF 受信
CFR 送信
403
404
受信したTSIは登録済みか？
YES
NO
通常受信処理へ
SUBフレームセーブ
405
ファイルヘッダー作成
(SUB対応ビット設定＆セーブしたSUBへのリンク情報設定)
406
通常メモリ受信処理へ

【図１０】


発呼側
被呼側
caller ID
1st Response
call
発行者番号通知手順（網－被呼間）
(CSI)/DIS
SUB/TSI/DCS
TCF
CFR
PIX
EOP
MCF
DCN

【図１１】


着　呼
発信者番号受信＆セーブ
501
(CSI)/DIS 送信
502
SUB/TSI/DCS 受信
503
TCF 受信
CFR 送信
504
505
受信した発信者番号は登録済みか？
YES
NO
通常受信処理へ
SUBフレームセーブ
506
ファイルヘッダー作成
(SUB対応ビット設定＆セーブしたSUBへのリンク情報設定)
507
通常メモリ受信処理へ